

インターロッキングブロック (ノーマル・レイントーン)

●特長

1.豊富な形状とカラー

形状とカラーが豊富で、多種多様な現場に対応することができます。

2.実績

インターロッキングはこれまでに数多くの実績がある、一般的な製品です。

3.透水性・保水性

透水性タイプや保水性タイプ、透水・保水タイプにすることが可能です。

※レイントーンは保水タイプのみ。

4.経済性

ノーマルは比較的安価で経済性に優れています。

5.自然で柔らかな表情(レイントーン)

レイントーンは表面がショットブラスト加工になっており、従来のインターロッキングブロックにはない自然で柔らかな表情を持っています。

6.摩擦抵抗が大きい(レイントーン)

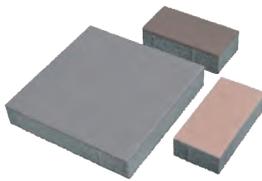
レイントーンは表面がショットブラスト加工による適度な凹凸により、摩擦抵抗が大きく、雨天でもすべりを防止し、快適な歩行感を提供します。



▲レイントーン(灰・赤・薄橙・濃茶)

ノーマル

標 透 R 保 保透



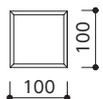
レイントーン

標 R 保



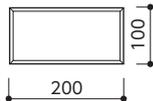
基本形状図

●レンガブロック小



使用量 (個/m²) = 100
T=60・80

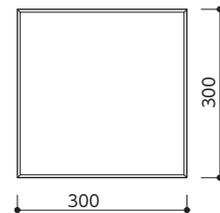
●レンガブロック中



使用量 (個/m²) = 50
T=60・80

●平板大

使用量 (個/m²) = 11.1
T=60・80



※大型車両が乗入れする箇所では、平板大(300×300)は破損の恐れがありますので、レンガブロック中・小の使用をお勧めいたします。

カラーバリエーション(ノーマル)



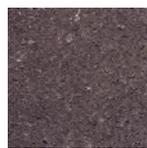
レッド



ベージュ



オレンジ



ダークブラウン



ホワイト



グレー

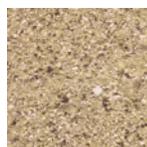


ブラック

カラーバリエーション(レイントーン)



赤



薄橙



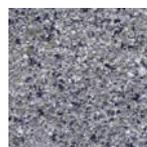
橙



濃茶



白



灰



黒

●写真の製品の色は、印刷のため色調や質感が実物と若干異なる場合があります。



▲レイントーン(白、黒)



▲ノーマル(グレー・ホワイト)



▲ノーマル(ベージュ、ホワイト、グレー)

視覚障害者用誘導ブロックとその周辺の舗装材に対して輝度比を要求される場合の配慮について

「道路の移動等円滑化整備ガイドライン」(国土技術研究センター発行)において、「一般的に視覚障害者誘導用ブロックは黄色と認知されており、黄色が良いとする意見も多いため、黄色を基本とするが、路面の色彩が類似している場合、周囲の路面との輝度比を2.0程度確保することにより視覚障害者誘導用ブロックが容易に識別できることが必要である。」と記載されており、舗装材の割り付けにおいて「輝度比」を要求される事例が増加しつつあります。

輝度比2.0といっても、気象状況、舗装材の湿潤状況、経年変化(特に鹿児島県や宮崎県南部では降灰の問題)もあり、輝度比を特に要求される事例においては、新材計測時の輝度比3.0に近い色の組合せを推奨致します。

※詳しくは営業担当にご相談ください。

【輝度とは】

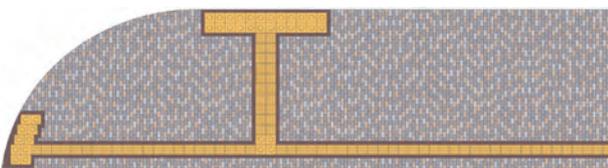
観察者から見て対象がどのくらい明るく見えるかを示すもので、対象の色や照明の強さによって変化します。同一の照明の下で2つの対象物の輝度を測定して輝度比を求めることができます。輝度比の求め方は何種類ありますが、誘導ブロックと周囲(歩道路面)の輝度を測定してその比を求めるのが単純な方法です。輝度の比が大きいかほど明暗のコントラストが大きくなります。

$$\text{輝度比} = \frac{\text{誘導用ブロックの輝度 (cd/m}^2\text{)}}{\text{歩道路面の輝度 (cd/m}^2\text{)}}$$

cd/m²:輝度の単位
光源の表面の明るさの度合いを表す数値で、単位面積あたりの光度(cd:カンデラ)の度合いで決まる。

【輝度比を考慮した割付図例】

「グレー」「ホワイト」「ベージュ」を基調にした舗装パターンだが「特イエロー」の誘導ブロックの両脇に「ダークブラウン」を敷設する事で、輝度比を確保。



レイントーンの「薄橙」「橙」を基調にした舗装パターンだが、「特イエロー」の誘導ブロックの両脇にノーマルの「ダークブラウン」を敷設する事で、輝度比を確保。

